科目名	歯科技工管理学１			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Dental Laboratory Practice Administration 1			総時間数	60	単　位	4
学　年	１年	学　期	前期	曜　日	月～金	時　限	2

担当教員	①杉田順弘 ②大石直之 ③倉田浩二 ④石田真里 ⑤髙須賀千紘	実務者経験	

学習内容	医療人として身につけておくべき情報リテラシー，コミュニケーションの概要を学ぶ。 専門教科を学習していく前段階として、幅広く歯科医療の特殊性を学ぶ。
到達目標	歯科医療の特殊性を理解できる。

準備学習 時間外学習	教科書『歯科技工管理学』（医歯薬出版）の歯科技工学概論の復習が必要。
使用教材	教科書『歯科技工管理学』（医歯薬出版），『歯科技工の基礎知識』（滋慶出版），　配布プリント
留意点 備　考	学外で他学科と合同でのコミュニケーションスキルと積極性が求められる。

成績評価	終講試験等で評価する。

授業計画【テーマ・内容･目標】		
1	歯科臨床と歯科技工	歯科技工に用いる基本的な器具の使用目的、使用方法を説明できる。
2	歯科臨床と歯科技工	歯科技工に用いる基本的な器具の使用目的、使用方法を説明できる。
3	歯科臨床と歯科技工	歯の欠損に適用する補綴装置の種類と特徴を列挙できる。
4	歯科臨床と歯科技工	歯科技工に用いる模型材料（普通石膏）の錬和、注入操作ができる。
5	歯科臨床と歯科技工	歯科技工に用いる模型材料（硬石膏）の錬和、注入操作ができる。
6	歯科臨床と歯科技工	無歯顎模型と可撤性補綴装置の各部の名称を列挙できる。
7	コミュニケーション	適切な伝達方法を選択できる。
8	歯科臨床と歯科技工	無歯顎模型の取り扱いと可撤性補綴装置の設計ができる。
9	顔および口腔組織の形態	顔および口腔組織の形態と機能、口腔組織の構造を説明できる。
10	情報リテラシー	ソフトウェアの使用上のルールとマナーについて説明できる。
11	コミュニケーション	良好なコミュニケーションするためのスキルを身につける。
12	歯科疾患と歯周組織	硬組織疾患と歯周組織疾患の種類と特徴を説明できる。
13	コミュニケーション	グループワークを実施できる。

14	コミュニケーション（学外）	適切な伝達方法を選択し、正しい言葉使いで会話できる。
15	コミュニケーション（学外）	グループワークを実施し、その成果を発表する。
16	コミュニケーション（学外）	傾聴と承認のスキルを身につける。
17	コミュニケーション（学外）	適切な伝達方法を選択し、正しい言葉使いで会話できる。
18	歯科医療と歯科技工	医療の目的と歯科医療の特殊性を説明できる。

科目名	美術概論			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Introduction of Art			総時間数	15	単　位	1
学　年	1年	学　期	前期	曜　日	月	時　限	2

担当教員	畑　卓也	実務者経験	

学習内容	歯の形、色を立体的に捉える目を養う
到達目標	歯の形、色を立体的に捉える

準備学習 時間外学習	
使用教材	配布プリント
留意点 備　考	

成績評価	提出作品で評価する。

授業計画【テーマ・内容･目標】		
1	色彩	錯視（目の錯覚におよっておこる現象を説明 色彩（色の三要素など、色彩の基礎のついて） 色彩トレーニング（色紙をトーン別に分類する
2	立方体	立方体トレーニング （立方体の描写をすることでパースペクティブを理解させる）
3	立方体	ひらがなを描く （各自の氏名を立方体に描く．帯状であることを条件にしてサインペン仕上げ）
4	図形思考	図形思考 （平面から立体を把握するトレーニング）
5	デッサン	鉛筆デッサン （各自で切削した石膏を見ながら全体のバランスが正確にとれるようデッサンする．
6		

科目名	外国語１			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Foreign Language 1			総時間数	30	単　位	2
学　年	１年	学　期	後期	曜　日	木	時　限	2

担当教員	平松　理彩	実務者経験	歯科医師、令和5年3月～大阪大学歯学部附属病院にて、歯科治療に携わっている。

学習内容	基礎的な会話から歯科専門的な内容に渡り、実践的な英語を学ぶ。
到達目標	歯科に関連する英単語が理解できる。日常的な会話ができるレベルまで到達する。

準備学習 時間外学習	授業で用いた英単語・例文の復習が必要。
使用教材	最新歯科技工士教本「歯科英語」（全国歯科技工士教育協議会　編集・医歯薬出版株式会社　出版）、配布プリント
留意点 備　考	特記事項無し

成績評価	期末試験100%で評価する。

授業計画【テーマ・内容･目標】		
1	歯科英語１	Chapter1-1,2,3　一般的な会話① Chapter3-1 歯の名前、歯の構造、歯式
2	歯科英語2	Chapter1-4　一般的な会話② Chapter3-2　クラウンの製作
3	歯科英語3	Chapter1-5　一般的な会話③ Chapter3-3　陶材焼付金属冠の製作
4	歯科英語4	Chapter2-1　歯科医院での会話① Chapter3-4　義歯の製作①
5	歯科英語5	Chapter2-2,3　歯科医院での会話② Chapter3-4 義歯の製作②
6	歯科英語6	Chapter2-4,5　歯科医院での会話③ Chapter3-5,6　歯科技工指示書
7	歯科英語7	Chapter4　各種文書 総復習、プレテスト
8	期末試験	期末試験
9	歯科英語8	期末試験　テスト解説

科目名	小児歯科技工学			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Dental Technology for Pedodontic Appliances			総時間数	15	単　位	1
学　年	1年	学　期	後期	曜　日	木	時　限	2

担当教員	平木　建史	実務者経験	歯科医師 昭和57年12月～歯科臨床に携わり、現在に至る。

学習内容	小児の成長発育を理解し、小児歯科における装置の制作方法を学ぶ。
到達目標	小児の成長発育を理解し、小児歯科における装置の制作方法を列挙できる。

準備学習 時間外学習	
使用教材	最新歯科技工士教本　小児歯科技工学（医歯薬出版）
留意点 備　考	

成績評価	期末試験100%で評価する。

授業計画【テーマ・内容･目標】		
1	小児歯科概説	齲蝕、欠損、不正咬合
2	成長発育	成長発育と年齢　　ヘルマンの咬合発育段階
3	保隙装置	クラウンループ、ディスタルシュー、リンガルアーチ、舌側弧線型保隙装置、 ナンスのホールディングアーチ
4	スペースリゲイナー 咬合誘導装置	拡大ネジとアダムスのクラスプ、咬合誘導装置と口腔習癖除去装置
5		
6		

科目名	口腔・顎顔面解剖学			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Oral and Maxillofacial Anatomy			総時間数	40	単　位	2
学　年	1年	学　期	前期	曜　日	水	時　限	2

担当教員	本間　志保	実務者経験	

学習内容	・歯の形態、口腔における歯の配列やかみ合わせについて学ぶ ・歯と歯周組織がどのような構造をし、どのように出来てくるのか学ぶ ・口腔や顔面を構成する諸器官の構造を理解し、それらがどのように機能しているか学ぶ
到達目標	・歯科技工士にとって必要である歯の形態、口腔における歯の配列やかみ合わせについて理解する ・歯と歯周組織がどのような構造をし、どのように出来てくるのか理解する ・口腔や顔面を構成する諸器官の構造を理解し、それらがどのように機能しているか理解する

準備学習 時間外学習	講義予定の教科書を読んで予習をしておくこと
使用教材	教科書：最新歯科技工士教本「口腔・顎顔面解剖学」（医歯薬出版）、配布プリント
留意点 備　考	歯の模型を持参し、講義の参考にすること

成績評価	期末テストおよび単元ごとの小テストで評価する

授業計画【テーマ・内容･目標】		
1	歯の解剖学総論	歯の定義、機能、種類、記号、方向用語、歯の外形　等
2	歯の解剖学各論	前歯の形態学的特徴
3	歯の解剖学各論	小臼歯の形態学的特徴
4	歯の解剖学各論	大臼歯の形態学的特徴
5	歯の解剖学各論	大臼歯の形態学的特徴
6	歯の解剖学各論	乳歯の形態学的特徴･歯列咬合、歯の異常
7	顎･顔面解剖学各論	顎･顔面領域の骨、筋肉
8	口腔解剖学各論	口腔内諸器官の解剖学
9	口腔発生学各論	人体および歯の発生
10	口腔組織学各論	歯･歯周組織の組織学
11		

科目名	有床義歯技工学			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Dental Technology for Removable Dentures			総時間数	60	単　位	4
学　年	1	学　期	前期	曜　日	月	時　限	2

担当教員	湯本　華帆	実務者経験	歯科医師。令和6年3月～大阪大学歯学部附属病院で歯科治療に携わっている。

学習内容	全部床義歯の基礎と臨床について学び、歯科技工士が歯科医師と連携して歯科技工業をなすうえで必要な知識を学ぶ。
到達目標	歯科医師と歯科技工士が協力し全部床義歯を製作するために必要な知識を学ぶ。

準備学習 時間外学習	教科書で予習復習を行うと好ましい
使用教材	有床義歯技工学　全国歯科技工士教育協議会　編集
留意点 備　考	

成績評価	期末試験

授業計画【テーマ・内容･目標】		
1	有床義歯技工学１	１【有床義歯技工学概説】２【有床義歯技工に関連のある生体についての基礎知識】
2	有床義歯技工学２	３【全部床義歯の特性】
3	有床義歯技工学３	４【全部床義歯の製作順序】
4	有床義歯技工学４	５【全部床義歯の印象採得に伴う技工作業】
5	有床義歯技工学５	６【全部床義歯の咬合採得に伴う技工作業】
6	有床義歯技工学６	７【全部床義歯の人工歯排列と歯肉形成】
7	有床義歯技工学７	８【全部床義歯の人工歯排列と歯肉形成】
8	有床義歯技工学８	９【全部床義歯の埋没と重合】
9	有床義歯技工学９	１０【全部床義歯の咬合器への再装着、削合および研磨】
10	有床義歯技工学１０	まとめ

科目名	有床義歯技工学			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Dental Technology for Removable Dentures			総時間数	60	単　位	4
学　年	1	学　期	後期	曜　日	月	時　限	2

担当教員	湯本　華帆	実務者経験	歯科医師。令和6年3月～大阪大学歯学部附属病院で歯科治療に携わっている。

学習内容	部分床義歯の基礎と臨床について学び、歯科技工士が歯科医師と連携して歯科技工業をなすうえで必要な知識を学ぶ。
到達目標	歯科医師と歯科技工士が協力し部分床義歯を製作するために必要な知識を学ぶ。

準備学習 時間外学習	教科書で予習復習を行うと好ましい
使用教材	有床義歯技工学　全国歯科技工士教育協議会　編集
留意点 備　考	

成績評価	期末試験

授業計画【テーマ・内容･目標】		
1	有床義歯技工学１	１０【部分床義歯の特徴】
2	有床義歯技工学２	１１【部分床義歯の製作順序】　１２【部分床義歯の構成要素】
3	有床義歯技工学３	１３【部分床義歯の印象採得に伴う技工作業】
4	有床義歯技工学４	１４【部分床義歯の咬合採得に伴う技工作業】
5	有床義歯技工学５	１５【クラスプの製作】　１６【バーの製作】
6	有床義歯技工学６	１７【部分床義歯の人工歯排列、削合、歯肉形成】
7	有床義歯技工学７	１８【部分床義歯の埋没と重合】
8	有床義歯技工学８	１９【部分床義歯の咬合調整と研磨】
9	有床義歯技工学９	２０【修理、リベース、リライン】
10	有床義歯技工学１０	２１【オーバーデンチャー、金属床義歯、その他】

科目名	歯科理工学			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Dental Materials Science			総時間数	150	単　位	10
学　年	1	学　期	前期	曜　日	金	時　限	2

担当教員	寺岡　文雄	実務者経験	

学習内容	歯科理工学の意義について学ぶ 歯科用無機材料の基本的特性、種類、用途について学ぶ 歯科用高分子材料の基本的特性、種類、用途について学ぶ
到達目標	歯科用無機材料の基本的特性、種類、用途を理解する 歯科用高分子材料の基本的特性、種類、用途を理解する

準備学習 時間外学習	
使用教材	教科書『歯科理工学』（全国歯科技工士教育協議会編）、サブノートプリント配布
留意点 備　考	

成績評価	各学期に本試験と小テストで評価する。

回数	授業計画【テーマ・内容･目標】	
1	歯科理工学とは	歯科理工学の意義と目的
2	歯科材料の性質	機械的性質と試験法
3	歯科材料の性質	物理的性質、化学的性質
4	歯科材料の性質	生物学的性質
5	歯科材料の性質	接着
6	印象材	印象材の種類
7	印象材	印象材の一般的性質
8	印象材	印象材と模型の関係
9	石膏	石膏の種類
10	石膏	石膏の一般的性質
11	石膏	石膏の取り扱い

科目名	歯科理工学			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Dental Materials Science			総時間数	150	単　位	10
学　年	1	学　期	後期	曜　日	金	時　限	2

担当教員	寺岡　文雄	実務者経験	

学習内容	歯科理工学の意義について学ぶ 歯科用無機材料の基本的特性、種類、用途について学ぶ 歯科用高分子材料の基本的特性、種類、用途について学ぶ
到達目標	歯科用無機材料の基本的特性、種類、用途を理解する 歯科用高分子材料の基本的特性、種類、用途を理解する

準備学習 時間外学習	
使用教材	教科書『歯科理工学』（全国歯科技工士教育協議会編）、サブノートプリント配布
留意点 備　考	

成績評価	各学期に本試験と小テストで評価する。

回数	授業計画【テーマ・内容･目標】	
1	ワックス	ワックスの成分
2	ワックス	ワックスの物理的性質
3	ワックス	ワックスの種類と取り扱い
4	レジン	義歯床用レジン
5	レジン	義歯床用レジンの操作
6	レジン	既成レジン歯
7	レジン	歯冠用硬質レジン
8	レジン	修復用レジンと接着性レジン
9	レジン	修復用レジンと接着性レジン
10	セラミック	セラミックの安定性と物理的性質
11	セラミック	歯科用陶材と既成陶歯

科目名	歯科理工学			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Dental Materials Science			総時間数	150	単　位	10
学　年	1	学　期	前期	曜　日	火	時　限	2

担当教員	荘村　泰治	実務者経験	

学習内容	歯科用金属、合金の基本的特性、種類、用途について学ぶ 歯科鋳造用の理論、埋没材、鋳造法、　鋳造欠陥について学ぶ 歯科用CAD/CAMシステムの理論と材料および修復物製作法について学ぶ
到達目標	歯科用金属、合金の基本的特性、種類、用途を理解する 歯科鋳造用の理論、埋没材、鋳造法、鋳造欠陥について理解し、作業ができるようにする。 歯科用CAD/CAMシステムの理論と材料および修復物製作法について理解し、操作のための知識を蓄積する。

準備学習 時間外学習	歯科用合金の理工学、歯科CAD/CAMシステム、コンピュータシステムの予習が必要。
使用教材	教科書『歯科理工学』（全国歯科技工士教育協議会編）、サブノートプリント配布
留意点 備　考	歯科用CAD/CAMシステムの理論と材料については最新の内容をプリントで紹介する

成績評価	各学期に本試験と小テストで評価する。

回数	授業計画【テーマ・内容･目標】	
1	歯科金属学１	金属学基礎　原子の結合、金属結晶とその構造
2	歯科金属学２	合金について、合金の冷却曲線
3	歯科金属学３	合金の状態図・合金の混ざり方：全率固溶体・共晶体
4	歯科金属学４	歯科用金属の分類と種類
5	歯科金属学５	貴金属系鋳造用金合金、加工用金合金の種類と用途
6	歯科金属学６	鋳造用銀合金の種類と用途
7	歯科金属学７	非貴金属系合金の種類と用途　鋳造用・加工用
8	歯科金属学８	歯科鋳造の原理と技術　鋳造理論

科目名	歯科理工学			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Dental Materials Science			総時間数	150	単　位	10
学　年	1	学　期	後期	曜　日	火	時　限	2

担当教員	荘村　泰治	実務者経験	

学習内容	歯科用金属、合金の基本的特性、種類、用途について学ぶ 歯科鋳造用の理論、埋没材、鋳造法、　鋳造欠陥について学ぶ 歯科用CAD/CAMシステムの理論と材料および修復物製作法について学ぶ
到達目標	歯科用金属、合金の基本的特性、種類、用途を理解する 歯科鋳造用の理論、埋没材、鋳造法、鋳造欠陥について理解し、作業ができるようにする。 歯科用CAD/CAMシステムの理論と材料および修復物製作法について理解し、操作のための知識を蓄積する。

準備学習 時間外学習	歯科用合金の理工学、歯科CAD/CAMシステム、コンピュータシステムの予習が必要。
使用教材	教科書『歯科理工学』（全国歯科技工士教育協議会編）、サブノートプリント配布
留意点 備　考	歯科用CAD/CAMシステムの理論と材料については最新の内容をプリントで紹介する

成績評価	各学期に本試験と小テストで評価する。

回数	授業計画【テーマ・内容･目標】	
1	歯科金属学９	歯科鋳造用埋没材と埋没操作
2	歯科金属学10	鋳型の加熱、鋳造器と鋳造操作、鋳造精度
3	歯科金属学11	鋳造欠陥の現象、原因、対策
4	歯科金属学12	金属合金の塑性加工、金属の接合
5	歯科用CAD/CAMシステム１	CAD/CAMについて、歯科用CAD/CAMシステムの歴史
6	歯科用CAD/CAMシステム２	歯科用計測システム、CADシステム
7	歯科用CAD/CAMシステム３	歯科用CAMシステム、AMシステム
8	歯科用CAD/CAMシステム４	歯科用CAD/CAMシステム用材料　ハイブリッド材料、セラミック材料

科目名	歯冠修復技工学			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Practice of Dental Technology for Fixed Dental Prostheses and Restorations			総時間数	60	単　位	4
学　年	1	学　期	前期	曜　日	金	時　限	2

担当教員	西本　廉	実務者経験	歯科医師 令和6年7月～大阪大学附属病院にて、歯科臨床に携わっている。

学習内容	歯冠修復の基礎と臨床について学び、歯科技工士が歯科医師と連携して歯科技工業をなすうえで必要な知識を学ぶ。
到達目標	歯科医師と歯科技工士が協力し歯冠修復物を製作するために必要な知識を学ぶ。

準備学習 時間外学習	教科書で予習復習を行うと好ましい
使用教材	歯冠修復技工学　全国歯科技工士教育協議会　編集
留意点 備　考	

成績評価	期末試験

授業計画【テーマ・内容･目標】		
1	歯冠修復技工学１	1【歯冠修復技工学概説】　意義と目的、臨床的価値
2	歯冠修復技工学２	2【クラウンの概要と種類】　部分被覆冠、全部被覆冠、継続歯
3	歯冠修復技工学３	3【ブリッジの概要と種類】　ブリッジの特徴、構成要素、種類
4	歯冠修復技工学４	4【クラウンおよびブリッジの具備用件】生物学的用件、構造力学的用件、科学的用件
5	歯冠修復技工学５	5【クラウンおよびブリッジの製作順序】印象採得、個人トレー
6	歯冠修復技工学６	6【クラウンおよびブリッジの製作順序】次第築造、テンポラリークラウン・ブリッジ
7	歯冠修復技工学７	7【クラウンおよびブリッジの製作順序】色調選択、作業用模型、咬合器装着
8	歯冠修復技工学８	8【クラウンおよびブリッジの製作順序】ワックスアップ、埋没、鋳造作業
9	歯冠修復技工学９	9【クラウンおよびブリッジの製作順序】適合調整、研磨、試適・仮着・合着
10	歯冠修復技工学１０	10【クラウンおよびブリッジの製作順序】レジン前装、陶材の築盛・焼成

科目名	歯冠修復技工学			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Practice of Dental Technology for Fixed Dental Prostheses and Restorations			総時間数	60	単　位	4
学　年	1	学　期	後期	曜　日	金	時　限	2

担当教員	西本　廉	実務者経験	歯科医師 令和6年7月～大阪大学附属病院にて、歯科臨床に携わっている。

学習内容	歯冠修復の基礎と臨床について学び、歯科技工士が歯科医師と連携して歯科技工業をなすうえで必要な知識を学ぶ。
到達目標	歯科医師と歯科技工士が協力し歯冠修復物を製作するために必要な知識を学ぶ。

準備学習 時間外学習	教科書で予習復習を行うと好ましい
使用教材	歯冠修復技工学　全国歯科技工士教育協議会　編集
留意点 備　考	

成績評価	期末試験

授業計画【テーマ・内容･目標】		
1	歯冠修復技工学１	１【部分被覆冠】　インレー、アンレー、3/4クラウン、4/5クラウン、7/8クラウン
2	歯冠修復技工学２	２【部分被覆冠】　プロキシマルハーフクラウン、ピンレッジ、ラミネートベニヤ
3	歯冠修復技工学３	３【全部被覆冠】　全部金属冠、前装冠
4	歯冠修復技工学４	４【全部被覆冠】　ジャケットクラウン
5	歯冠修復技工学５	５【継続歯】　適応用途、支台歯形態
6	歯冠修復技工学６	６【ブリッジ】　支台装置、ポンティック
7	歯冠修復技工学７	７【ブリッジ】　連結法、ブリッジの製作法
8	歯冠修復技工学８	８【インプラント】　インプラントの概要
9	歯冠修復技工学９	９【インプラント】　インプラントの種類、上部構造製作技工の注意点
10	歯冠修復技工学１０	１０　まとめ

科目名	歯冠修復技工学実習１			必修/選択	必修	授業形式	実習
【英】	Practice of Dental Technology for Fixed Dental Prostheses and Restorations 1			総時間数	160	単　位	5
学　年	１年	学　期	前後期	曜　日	火・水	時　限	1.5

担当教員	①高須賀千紘 ②松山和也 ③神浦 普	実務者経験	②平成2年5月～歯科技工所を開設、現在に至る。 ③平成30年4月～歯科技工所を開設、現在に至る。

学習内容	医療分野における歯科医療の重要性、歯科医療における歯科技工の役割を理解し、専門基礎分野と専門分野における学習を的確に行うために、それらに必要な基礎的事項を修得する。 知識・技術を歯科臨床の場面に適用し、理論と実践を結び付けて理解できる能力と技術力を習得する。
到達目標	各種の歯冠修復物に関する知識を学習し、歯冠修復物製作の技術を習得する。 全部金属冠、支台築造体、インレー、アンレー、テンポラリークラウンを製作することができる。

準備学習 時間外学習	教科書『歯冠修復技工学』（医歯薬出版）におけるクラウンとブリッジの具備要件や製作を予習する。
使用教材	教科書『歯冠修復技工学』（医歯薬出版），『歯科技工学実習トレーニング本』（医歯薬出版），　配布プリント
留意点 備　考	歯の形を覚えるために、教科書『口腔･顎顔面解剖学』と専門雑誌『歯科技工』（医歯薬出版）・『QDT』（ｸｲﾝﾃｯｾﾝｽ出版）の掲載写真等を参考に実習に取り組むことが望ましい。

成績評価	完成作品の提出後、前期後期実技試験を行い評価する。

授業計画【テーマ・内容･目標】		
1	模型材の注入	歯科技工士の業務を説明できる。印象材の種類と特徴を列挙できる。印象方法を説明できる。模型材の注入ができる。
2	作業用模型の製作	歯科技工に必要な作業模型の製作材料の種類と特徴を説明できる。作業用模型を製作できる。作業用模型の意義と目的を説明できる。
3	作業用模型の製作	歯科技工に必要な作業模型の製作材料の種類と特徴を説明できる。クラウンの製作順序を説明できる。作業用模型の製作法を説明できる。咬合平面を説明できる。
4	作業用模型の製作	クラウンの製作順序を説明できる。作業用模型の製作ができる。
5	作業用模型の製作	作業用模型の種類を列挙できる。作業用模型の製作法を説明できる。作業用模型製作の台付け移行部の修正ができる。
6	歯型の分割	クラウンの製作順序を説明できる。作業用模型を製作できる。鋸を使用し歯型の分割ができる。
7	歯型のトリミング	作業用模型を製作できる。歯型の辺縁形態を説明できる。歯型のトリミングができる。
8	咬合器へ装着	咬合器の使用手順と調節方法を説明できる。咬合器に作業用模型を装着できる。
9	ワックスアップ	歯のスケッチにより歯の形態を正確に描写できる。歯科用CAD/CAMシステムの構成と特徴を理解しCADソフトウェアが扱える。全部金属冠のワックスアップができる。
10	ワックスアップ	歯の形態を説明できる。クラウンの製作順序を説明できる。 全部金属冠のワックスアップができる。
11	ワックスアップ	機能咬頭、非機能咬頭および被蓋関係を説明できる。ワックスアップの種類と方法を説明できる。全部金属冠のワックスアップができる。
12	ワックスアップ	下顎の基本運動の種類と特徴を説明できる。歯科用CAD/CAMシステムの構成と特徴を概説できる。全部金属冠のワックスアップができる。
13	ワックスアップ	咬頭嵌合位と偏心位の咬合接触を説明できる。歯科用CAD/CAMシステムの構成と特徴を理解しCADソフトウェアが扱える。全部金属冠の咬合面ワックスアップができる。
14	辺縁の再圧接	全部金属冠のワックスアップができる。辺縁の再圧接ができる。隣接接触面の位置・形状が説明できる。
15	埋没	埋没材の種類・性質、埋没操作を説明できる。 スプルーの植立・埋没ができる。

科目名	歯冠修復技工学実習１			必修/選択	必修	授業形式	実習
【英】	Practice of Dental Technology for Fixed Dental Prostheses and Restorations 1			総時間数	160	単　位	5
学　年	１年	学　期	前後期	曜　日	火・水	時　限	1.5

授業計画【テーマ・内容･目標】		
16	鋳造	合金の融解と鋳込み方法を説明できる。 全部金属冠の鋳造・内外面の調整ができる。
17	歯型への試適	切削・研削・研磨用材料と器械の取り扱い方を説明できる。 全部金属冠の歯型への試適・隣接面・咬合面の調整ができる。
18	実技模擬試験	【前期実技模擬①試験】 歯の形態を説明できる。下顎第一大臼歯のワックスアップができる。
19	実技模擬試験講評	【前期実技模擬①試験講評】正しい言葉遣いで会話できる。適切な伝達法を選択できる。歯の形態を説明できる。下顎第一大臼歯のワックスアップができる。
20	切削・研削・中研磨	切削・研削・研磨用材料と器械の取り扱い方を説明できる。 全部金属冠の切削・中研磨ができる。
21	研磨	補綴装置の表面仕上げの意義と目的を説明できる。 研磨の意義と目的を説明できる。全部金属冠の研磨ができる。
22	作品提出	クラウンの製作順序を説明できる。研磨法を説明できる。全部金属冠の研磨ができる。 自己点検自己評価表の作成。
23	実技模擬試験・講評	【前期実技模擬②試験・講評】正しい言葉遣いで会話できる。適切な伝達法を選択できる。歯の形態を説明できる。下顎第一大臼歯のワックスアップができる。
24	前期実技試験講評	【前期実技試験講評】適切な伝達法を選択できる。歯の形態を説明できる。下顎第一大臼歯のワックスアップができる。作業用模型を製作できる。
25	前期実技試験講評	【前期実技試験講評】適切な伝達法を選択できる。歯の形態を説明できる。下顎第一大臼歯のワックスアップができる。作業用模型製作の台付け移行部の修正ができる。
26	作業用模型の製作	作業用模型製作の模型の調整及び歯型の分割ができる。
27	作業用模型の製作	咬合器の使用手順と調節方法を説明できる。作業用模型製作の歯型トリミングができる。咬合器に作業用模型を装着できる。
28	ワックスアップ	歯のスケッチにより歯の形態を正確に描写できる。歯科用CAD/CAMシステムの構成と特徴を理解しCADソフトウェアが扱える。全部金属冠のワックスアップができる。
29	ワックスアップ	歯の形態を説明できる。クラウンの製作順序を説明できる。 全部金属冠のワックスアップができる。
30	ワックスアップ	機能咬頭、非機能咬頭および被蓋関係を説明できる。ワックスアップの種類と方法を説明できる。全部金属冠のワックスアップができる。
31	ワックスアップ	咬頭嵌合位と偏心位の咬合接触を説明できる。 全部金属冠の咬合面ワックスアップができる。
32	辺縁の再圧接	辺縁の再圧接ができる。隣接接触面の位置・形状が説明できる。リムーバルノブの説明ができる。
33	埋没	埋没材の種類・性質、埋没操作を説明できる。 スプルーの植立・埋没ができる。
34	鋳造	合金の融解と鋳込み方法を説明できる。 全部金属冠の鋳造・内外面の調整ができる。
35	歯型への試適	切削・研削・研磨用材料と器械の取り扱い方を説明できる。 全部金属冠の歯型への試適・隣接面・咬合面の調整ができる。
36	切削・研削・中研磨	切削・研削・研磨用材料と器械の取り扱い方を説明できる。 全部金属冠の切削・中研磨ができる。
37	研磨	補綴装置の表面仕上げの意義と目的を説明できる。 クラウンの製作順序を説明できる。全部金属冠の研磨ができる。
38	歯科技工指示書作成	歯科技工指示書を作成できる。部分被覆冠の種類と特徴を列挙できる。支台築造の意義と目的を説明できる。インレーアンレーの製作順序を説明できる。支台築造の製作法を説明できる。
39	ワックスアップ	歯科技工士の業務を説明できる。齲蝕発症の要因を列挙できる。生物学的要件を説明できる。インレーアンレーのワックスアップができる。支台築造体のワックスアップができる。

科目名	歯冠修復技工学実習１			必修/選択	必修	授業形式	実習
【英】	Practice of Dental Technology for Fixed Dental Prostheses and Restorations 1			総時間数	160	単　位	5
学　年	１年	学　期	前後期	曜　日	火・水	時　限	1.5

授業計画【テーマ・内容･目標】		
40	ワックスアップ	メタルコアの基本外形，窩洞形態と構成要素を説明できる。ポスト部製作方法が説明できる，分割コア製作方法が説明できる。
41	辺縁の再圧接	支台築造の種類と使用材料を列挙できる。辺縁の再圧接ができる。隣接接触面の位置・形状が説明できる。
42	ワックスアップ	部分被覆冠と支台築造のワックスアップができる。
43	埋没	埋没材の種類・性質、埋没操作を説明できる。 部分被覆冠と支台築造体のスプルーの植立・埋没ができる。
44	鋳造	合金の融解と鋳込み方法を説明できる。 部分被覆冠と支台築造体の鋳造・内外面の調整ができる。
45	切削・研削・中研磨	切削・研削・研磨用材料と器械の取り扱い方を説明できる。 部分被覆冠と支台築造体の歯型への試適・隣接面・咬合面の調整ができる。
46	研磨・作品提出	補綴装置の表面仕上げの意義と目的を説明できる。部分被覆冠の研磨ができる。インレーアンレーを製作できる。支台築造体を製作できる。自己点検自己評価表の作成。
47	実技模擬試験・講評	【後期実技模擬①試験・講評】適切な伝達法を選択できる。 歯の形態を説明できる。上顎第一大臼歯のワックスアップができる。
48	実技模擬試験・講評	【後期実技模擬②試験・講評】適切な伝達法を選択できる。 歯の形態を説明できる。上顎第一大臼歯のワックスアップができる。
49	実技模擬試験・講評	【後期実技模擬③試験・講評】適切な伝達法を選択できる。 歯の形態を説明できる。上顎第一大臼歯のワックスアップができる。
50	実技模擬試験・講評	【後期実技模擬④試験・講評】適切な伝達法を選択できる。 歯の形態を説明できる。上顎第一大臼歯のワックスアップができる。
51	後期実技試験講評	【後期実技試験講評】適切な伝達法を選択できる。 歯の形態を説明できる。上顎第一大臼歯のワックスアップができる。
52	テンポラリークラウン製作	研究用模型の使用目的を説明できる。テンポラリークラウン・ブリッジの使用材料と製作法を説明できる。テンポラリークラウンを製作できる。仮想支台歯形成ができる。
53	テンポラリークラウン製作	テンポラリークラウン製作における常温重合レジンを取り扱うことができる。テンポラリークラウンの形態修正ができる。
54	テンポラリークラウン製作	補綴装置の仕上げの意義と目的を説明できる。 テンポラリークラウンを製作できる。研磨ができる。

科目名	歯科技工実習１			必修/選択	必修	授業形式	実習
【英】	Practice of Dental Technology　1			総時間数	50	単　位	1
学　年	１年	学　期	後期	曜　日	月～金	時　限	2，1.5

担当教員	①杉田順弘 ②大石直之 ③倉田浩二 ④石田真里 ⑤高須賀千紘	実務者経験	

学習内容	各専門教科ごとの実習でで学んだ技術を実践するために、総合的に複数教科に関る技術を理論と結び付けて理解する。
到達目標	総合的に複数教科に関る技術を理論と結び付けて理解する。

準備学習 時間外学習	各専門教科の実習の復習が必要。
使用教材	特になし
留意点 備　考	

成績評価	実習作品・レポートの提出で評価する。

授業計画【テーマ・内容･目標】		
1	石膏彫刻	石膏ブロックをテーマを持って彫刻する。 テーマに沿った形態を3次元的に完成する。
2	石膏彫刻	石膏ブロックをテーマを持って彫刻する。 テーマに沿った形態を3次元的に完成する。
3	歯冠修復技工学	テーマに沿った形態を3次元的に完成する。
4	有床義歯技工学	テーマに沿った形態を3次元的に完成する。
5	歯の解剖学	永久歯の形態を3次元的に完成する。
6	歯の解剖学	歯の形態をデッサンで表現する。
7	歯冠修復技工学	テーマに沿った形態を3次元的に完成する。
8	歯冠修復技工学	テーマに沿った形態を3次元的に完成する。
9	有床義歯技工学	部分床義歯の維持装置と支台歯の維持力について理解する。
10	有床義歯技工学	部分床義歯の維持装置と支台歯の維持力について理解する。
11	有床義歯技工学	部分床義歯のレジン床の形態について理解する。
12	有床義歯技工学	部分床義歯のレジン床の形態について理解する。
13	有床義歯技工学	部分床義歯の研磨方法について理解する。
14	有床義歯技工学	部分床義歯の研磨方法について理解する。

科目名	情報科学			必修/選択	必須	授業形式	演習
【英】	Information Processing			総時間数	30	単　位	1
学　年	1	学　期	後期	曜　日	水	時　限	2

担当教員	矢部　有香	実務者経験	

学習内容	Wordの文書、レポート作成を学ぶ。 Excelの基本的な関数を学ぶ。
到達目標	Wordで抄録、チラシ、レポートなどが作成できる。 Excelの基本的な関数を使用することができる。

準備学習 時間外学習	苦手な部分はすすんで復習すること。
使用教材	「イチからしっかり学ぶ！Office基礎と情報モラル Office365・Office2019対応」（noa出版） 「考える 伝える 分かちあう 情報活用力」（noa出版）
留意点 備　考	無し

成績評価	Word試験50%、Excel試験50%

授業計画【テーマ・内容･目標】		
1	情報検索・運用	情報収集、インターネットを用いた情報検索・検証 情報の検索や検証、情報の正しい取り扱いができる。
2	ｲﾝﾀｰﾈｯﾄｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ Word①	メールのルールやマナー、Wordの基本操作 ルールやマナーを理解して適切にメールを利用できる。Wordの基本操作ができる。
3	Word②	文字書式、段落書式、表作成、図形、印刷 Wordで文書を作成できる。
4	Word③	ページ設定、ヘッダー/フッター、Excelのグラフ挿入、図表番号 Wordでレポートを作成できる。
5	Word④ Excel①	ページ設定、段組み、Excelの基本操作 Wordでさまざまな書式が利用できる。Excelの基本操作ができる。
6	Excel②	書式設定、罫線、ページ設定、印刷 Excelで表作成、印刷ができる。
7	Excel③	四則演算、絶対参照、合計、平均、端数処理、IF関数 Excelの基本的な関数が使用できる。
8	試験	試験

科目名	歯の解剖学実習 1			必修/選択	必修	授業形式	実習
【英】	Practice of Dental anatomy 1			総時間数	80	単　位	2
学　年	1	学　期	前期･後期	曜　日	木	時　限	1.5

担当教員	①倉田 浩二 ②鳥岡 あゆみ	実務者経験	②平成19年4月～歯科技工臨床に携わる、現在に至る。

学習内容	歯の形態や機能、その周囲の組織を解剖的事項から、歯型彫刻･デッサンにより理解をする。
到達目標	歯の形態的特徴の理解と表現

準備学習 時間外学習	実習で使用する石膏棒の作製
使用教材	教科書『歯のデッサンと歯型彫刻』(関西北陸地区歯科技工士学校連絡協議会 編集) 配布プリント　歯型彫刻学習用拡大模型14本
留意点 備　考	副教材として『口腔・顎顔面解剖学』（全国歯科技工士教育協議会 編集）の教科書を持参して受講することが望ましい。

成績評価	学期末の実技試験により評価

授業計画【内容･目標】		
1	下顎右側第一大臼歯	方向用語および歯牙名の解説　下顎右側第一大臼歯 各部名称説明 ノギスの使用方法　下顎右側第一大臼歯 各部の計測
2	下顎右側第一大臼歯	各部名称小テスト　下顎右側第一大臼歯1.5倍大サイズ彫刻 多面体カット法説明 石膏棒に外形記入　隣接面・頬舌面 切り出し完了
3	下顎右側第一大臼歯	下顎右側第一大臼歯 1.5倍大サイズ彫刻 固有咬合面・外形多面体ライン記入　外形多面体切り出し完了
4	下顎右側第一大臼歯	下顎右側第一大臼歯 1.5倍大サイズ彫刻 外形仕上げ　咬合面多面体カット　咬合面仕上げ　表面仕上げ
5	上顎右側第一大臼歯	下顎右側第一大臼歯 1.5倍大サイズ彫刻 提出 上顎右側第一大臼歯 各部名称説明 各部の計測 石膏棒に外形記入
6	上顎右側第一大臼歯	各部名称小テスト　上顎右側第一大臼歯1.5倍大サイズ彫刻 石膏棒に外形記入　隣接面・頬舌面 切り出し完了
7	上顎右側第一大臼歯	上顎右側第一大臼歯1.5倍大サイズ彫刻 固有咬合面・外形多面体ライン記入　外形多面体切り出し完了
8	上顎右側第一大臼歯	上顎右側第一大臼歯1.5倍大サイズ彫刻 外形仕上げ　咬合面多面体カット　咬合面仕上げ　表面仕上げ
9	下顎右側第一大臼歯	上顎右側第一大臼歯1.5倍大サイズ彫刻 提出 下顎右側第一大臼歯 等倍大彫刻 完成まで（各行程チェック）
10	下顎右側第一大臼歯	模擬試験 下顎右側第一大臼歯等倍大彫刻（120分）
11	下顎右側第一大臼歯	模擬試験作品講評 下顎右側第一大臼歯等倍大彫刻　（各項目ABC三段階評価 採点結果表配布）
12	下顎右側第一大臼歯	前期実技試験講評
13	上顎右側中切歯	上顎右側中切歯　各部名称･特徴説明　等倍大彫刻
14	上顎右側側切歯	上顎右側側切歯　各部名称･特徴説明　等倍大彫刻
15	上顎右側犬歯	上顎右側犬歯　各部名称･特徴説明　等倍大彫刻

科目名	歯の解剖学実習 1			必修/選択	必修	授業形式	実習
【英】	Practice of Dental anatomy 1			総時間数	80	単　位	2
学　年	1	学　期	前期･後期	曜　日	木	時　限	1.5

授業計画【内容･目標】		
16	下顎右側犬歯	下顎右側犬歯　各部名称･特徴説明　等倍大彫刻
17	上顎右側第一小臼歯	上顎右側第一小臼歯　各部名称･特徴説明　等倍大彫刻
18	上顎右側第二小臼歯	上顎右側第二小臼歯　各部名称･特徴説明　等倍大彫刻
19	下顎右側第一小臼歯	下顎右側第一小臼歯　各部名称･特徴説明　等倍大彫刻
20	下顎右側第二小臼歯	下顎右側第二小臼歯　各部名称･特徴説明　等倍大彫刻
21	下顎右側第二大臼歯	下顎右側第二大臼歯　各部名称･特徴説明　等倍大彫刻
22	上顎右側第二大臼歯	上顎右側第二大臼歯　各部名称･特徴説明　等倍大彫刻
23	上顎右側中切歯	上顎右側中切歯等倍大彫刻（60分）終了後作品講評
24	上顎右側第一大臼歯	上顎右側第一大臼歯等倍大彫刻（60分）終了後作品講評
25	上顎右側中切歯 上顎右側第一大臼歯	模擬試験 上顎右側中切歯･上顎右側第一大臼歯等倍大彫刻（120分）
26	上顎右側中切歯 上顎右側第一大臼歯	模擬試験作品講評　上顎右側中切歯･上顎右側第一大臼歯等倍大 （各項目ABC三段階評価 採点結果表配布）
27	上顎右側中切歯 上顎右側第一大臼歯	後期実技試験講評
28	下顎右側中切歯 下顎右側側切歯	下顎右側中切歯･下顎右側側切歯　各部名称･特徴説明　等倍大彫刻

科目名	有床義歯技工学 1			必修/選択	必修	授業形式	実習
【英】	Practice of Dental Technology for Removable Dentures 1			総時間数	200	単　位	6
学　年	1	学　期	前期	曜　日	月・水・木	時　限	2

担当教員	①大石直之 ②石田真里 ③中本千草 ④川本泰世	実務者経験	③平成1年3月～歯科技工所を開設、現在に至る。 ④昭和61年4月～歯科技工所に勤務、現在に至る。

学習内容	総義歯、部分床義歯の特色を理解し、基本的な技工操作を習得する。
到達目標	常温重合レジンを用いて個人トレー、基礎床を製作し咬合床を完成する。 人工歯排列、歯肉形成、埋没、加熱重合レジンを用いて重合し、総義歯を研磨完成する。 サベイングをもとに維持装置(クラスプ)を製作し、一連の工程を経て部分床義歯を完成する。

準備学習 時間外学習	各製作工程の目的を確認し、使用材料、器具の使用方法を復習する。 製作方法を復習するとともに、自己作品と完成作品を比較し、形態や精度の違いを確認する。
使用教材	『有床義歯技工学』最新歯科技工士教本、歯科技工学実習トレーニング(医歯薬出版)、および配布プリント
留意点 備　考	教本の掲載写真や図、教官の見本作品を参考に各工程での完成をイメージして実習に取り組むことが望ましい。

成績評価	提出作品、前後期の実技試験で評価する。

回数	授業計画【内容･目標】	
1	全部床義歯	上顎・個人トレー製作　設計～リリーフ～ブロックアウト～スペーサー圧接・溶着
2	全部床義歯	上顎・個人トレー製作　上顎レジン圧接～ハンドル取り付け～形態修正
3	全部床義歯	上顎・個人トレー製作　下顎レジン圧接～ハンドル取り付け～形態修正
4	全部床義歯	上顎・咬合床製作　設計～リリーフ～ブロックアウト
5	全部床義歯	上顎・咬合床製作　基礎床の製作
6	全部床義歯	上下顎・咬合床の製作　咬合提の製作
7	全部床義歯	上下顎・咬合床の製作
8	全部床義歯	上下顎・咬合床　咬合器装着
9	全部床義歯	上顎前歯　人工歯排列
10	全部床義歯	上顎前歯　人工歯排列完了　／　上顎臼歯　人工歯排列
11	全部床義歯	上顎　人工歯排列完了
12	全部床義歯	上顎唇頬側　歯肉形成
13	全部床義歯	上顎口蓋側　歯肉形成～上顎歯肉形成完了
14	全部床義歯	下顎左側・臼歯排列
15	全部床義歯	下顎右側・臼歯排列～臼歯排列完了

科目名	有床義歯技工学 1			必修/選択	必修	授業形式	実習
【英】	Practice of Dental Technology for Removable Dentures 1			総時間数	200	単　位	6
学　年	1	学　期	前期	曜　日	月・水・木	時　限	2

回数	授業計画【内容･目標】	
16	全部床義歯	人工歯排列・模擬試験(60分)→個人講評→修正完了
17	全部床義歯	歯肉形成・模擬試験(60分)→個人講評→修正完了
18	全部床義歯	模擬試験②　排列～形成
19	全部床義歯	模擬試験②　個人講評　／　本試用 上顎咬合床 咬合器装着完了
20	全部床義歯	前期実技試験　総評／個人講評
21	全部床義歯	下顎前歯排列完了
22	全部床義歯	咬合調整　中心咬合位、偏心咬合位調整完了
23	全部床義歯	下顎 唇側 歯肉形成
24	全部床義歯	下顎 舌側 歯肉形成
25	全部床義歯	上顎 蝋義歯埋没（ＦＲＰフラスコ）

科目名	有床義歯技工学 1			必修/選択	必修	授業形式	実習
【英】	Practice of Dental Technology for Removable Dentures 1			総時間数	200	単　位	6
学　年	1	学　期	後期	曜　日	月～金	時　限	2

担当教員	①大石直之 ②石田真里 ③中本千草 ④川本泰世	実務者経験	③平成1年3月～歯科技工所を開設、現在に至る。 ④昭和61年4月～歯科技工所に勤務、現在に至る。

学習内容	総義歯、部分床義歯の特色を理解し、基本的な技工操作を習得する。
到達目標	常温重合レジンを用いて個人トレー、基礎床を製作し咬合床を完成する。 人工歯排列、歯肉形成、埋没、加熱重合レジンを用いて重合し、総義歯を研磨完成する。 サベイングをもとに維持装置(クラスプ)を製作し、一連の工程を経て部分床義歯を完成する。

準備学習 時間外学習	各製作工程の目的を確認し、使用材料、器具の使用方法を復習する。 製作方法を復習するとともに、自己作品と完成作品を比較し、形態や精度の違いを確認する。
使用教材	『有床義歯技工学』最新歯科技工士教本、歯科技工学実習トレーニング(医歯薬出版)、および配布プリント
留意点 備　考	教本の掲載写真や図、教官の見本作品を参考に各工程での完成をイメージして実習に取り組むことが望ましい。

成績評価	提出作品、前後期の実技試験で評価する。

回数	授業計画【内容･目標】	
1	全部床義歯	上顎・脱蝋～重合
2	全部床義歯	下顎 蝋義歯埋没（メタルフラスコ）
3	全部床義歯	下顎・脱蝋～重合　／　上顎 割り出し
4	全部床義歯	下顎割り出し　／　上下顎 荒研磨
5	全部床義歯	上下顎 中研磨
6	全部床義歯	上下顎 仕上げ研磨　完成・提出
7	部分床義歯	ペーパーデザイン～サベイング～模型上に設計
8	部分床義歯	ブロックアウト　／　上顎　咬合器装着
9	部分床義歯	下顎　咬合器装着　／　試験用模型　咬合器装着～リリーフ
10	部分床義歯	コンビネーションワイヤークラスプ屈曲
11	部分床義歯	模擬試験①　／　講評①～修正
12	部分床義歯	模擬試験②　／　講評②～修正
13	部分床義歯	後期試験・個人講評　／　ワイヤークラスプ屈曲、エーカースクラスプWAXup
14	部分床義歯	エーカースクラスプWAXup
15	部分床義歯	スプルーイング～埋没①

科目名	有床義歯技工学 1			必修/選択	必修	授業形式	実習
【英】	Practice of Dental Technology for Removable Dentures 1			総時間数	200	単　位	6
学　年	1	学　期	後期	曜　日	月～金	時　限	2

回数	授業計画【内容･目標】	
16	部分床義歯	鋳造①　／　スプルーイング～埋没②
17	部分床義歯	鋳造②　／　※２年生実習用　咬合床、部分床義歯作業用模型 製作開始
18	部分床義歯	割り出し～サンドブラスト処理～荒研磨
19	部分床義歯	キャスト鉤の形態修正・適合完了～中研磨～即時重合レジンで連結
20	部分床義歯	維持装置仕上げ研磨～即時重合レジンで連結 維持装置をWax&レジンで模型に固定～Wax床の圧接
21	部分床義歯	人工歯排列完了　／　歯肉形成
22	部分床義歯	歯肉形成完了　／　咬合調整完了
23	部分床義歯	1次～２次～３次埋没完了
24	部分床義歯	流蝋～重合
25	部分床義歯	割り出し～荒研磨～中研磨仕上げ研磨【完成・提出】

科目名	小児歯科技工学実習			必修/選択	必修	授業形式	実習
【英】	Practice of Dental Technology for Pedodontic Appliances			総時間数	30	単　位	1
学　年	1	学　期	後期	曜　日	水	時　限	2

担当教員	①石田真里 ②中本千草	実務者経験	②平成1年3月～歯科技工所を開設、現在に至る。

学習内容	装置の意義と目的を理解し、基本的な製作方法を習得する。
到達目標	唇側線、維持装置を想定した平面図形に合致するように線屈曲を行う。 クラウンループ保隙装置を完成する。

準備学習 時間外学習	各製作工程の目的を確認し、使用材料、器具の使用方法を復習する。 製作方法を復習するとともに、自己作品と完成作品を比較し、形態や精度の違いを確認する。
使用教材	『小児歯科技工学』最新歯科技工士教本(医歯薬出版)、および配布プリント
留意点 備　考	教本の掲載写真や図、教官の見本作品を参考に各工程での完成をイメージして実習に取り組むことが望ましい。

成績評価	提出作品で評価する。

回数	授業計画【内容･目標】	
1	線屈曲	実習講義　／　線屈曲(平面Ａ)・提出①
2	線屈曲	線屈曲(平面Ｂ)・提出②　／　クラウンループ用　耐火模型の製作
3	クラウンループ保隙装置	実習講義　／　リリーフ～ループ外形線設計～ループ部屈曲開始
4	クラウンループ保隙装置	ループ部屈曲完了
5	クラウンループ保隙装置	鑞付け準備～鑞付け完了～粗研磨　／　アダムスのクラスプ模型製作開始(硬石膏80g)
6	クラウンループ保隙装置	中研磨～仕上げ研磨完了・提出③　／　アダムスのクラスプ模型製作開始(硬石膏80g)
7	アダムスのクラスプ	アダムスのクラスプ設計～アローヘッド適合部トリミング～リリーフ
8	アダムスのクラスプ	アダムスのクラスプ屈曲完了・提出④